

企画運営委員会からのロジスティクス環境会議（CGL）メンバーへの提案（案）

1. トラック輸配送に関する二酸化炭素排出量算定式について

【目 標】

- ・荷主企業と物流事業者の環境負荷低減活動の成果が正しく自己評価できる算定方法を確立すること
- ・産業界全体で算定を効率的、効果的に行うため、標準的な算定式を選定し、啓発・普及すること

1) 算定式試用（検証）の要請

標準式(燃料法)：二酸化炭素排出量(kg-CO₂) = 燃料使用量(リットル) × 二酸化炭素排出係数(kg-CO₂/リットル)

準標準式(燃費法)：二酸化炭素排出量(kg-CO₂) = [走行距離(km) ÷ 燃費(km/リットル)] × 二酸化炭素排出係数(kg-CO₂/リットル)

代替式(トンキロ法)：二酸化炭素排出量(kg-CO₂) = [輸送重量(t) × 走行距離(km)] × 二酸化炭素排出原単位(kg-CO₂/t・km)

(1) 試用の対象

- ・CGLメンバー

(2) 試用の目的

理論的に設定した算定式の精度を実際の算定結果を使って検証すること
上記算定式をトラック輸配送二酸化炭素排出量の算定に試用し、算定する際の問題点、課題を明らかにすること
の内容を『二酸化炭素排出量算定ガイド』に反映させること

(3) 試用の概要

算定実施範囲・・・ 日本国内、自社でコスト負担しているトラック輸配送
算定実施方法・・・ 算定未実施企業 燃料法、燃費法、トンキロ法のいずれかによる算定
算定実施企業 燃料法、燃費法、トンキロ法の中から複数の算定式を使い、結果を比較
理論的により算定精度の高い式による算定（燃料 > 燃費 > トンキロ）

試用実施期間等の詳細については、後日事務局よりメールにて連絡いたします。
事務局に算定を行う際の問題点、課題および算定結果の提出をお願いいたします。

企画運営委員会からのロジスティクス環境会議（CGL）メンバーへの提案（案）

2) 排出係数、排出原単位の標準的な値の整備とその維持管理に関する要望

(1) 要望先：関係行政機関（環境省、国土交通省）

(2) 要望の趣旨：各企業の算定結果の客観性および公平性を担保するために、以下の3点を要望したい。

- ・排出係数や排出原単位の値の告知
- ・値の変更の告知
- ・過去の値の継続的な提示

例1) 二酸化炭素排出係数：2.62(kg-CO₂/t)・・・2003年（環境省）
出典：『事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(試案 ver1.4)』環境省
現在ホームページへの掲示なし

現在、以下バージョンアップされた資料が存在するが、変更有無が分かりにくい
『事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(試案 ver1.5)』
<http://www.env.go.jp/earth/ondanka/santeiho/guide/index.html>

例2) 二酸化炭素排出原単位：0.178(kg-CO₂/t・km)・・・2002年（国土交通省）
普通車は積載量3,000kg以上
出典：『平成14年度版国土交通白書』国土交通省
<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h14/H14/index.html>

現在、改訂された資料が存在し、値が変更されている
『平成15年度版国土交通白書』0.174(kg-CO₂/t・km)
<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h15/hakusho/h16/index.html>

上記は2005年3月15日(火)上記ホームページによる調査

企画運営委員会からのロジスティクス環境会議（CGL）メンバーへの提案（案）

2. リバースロジスティクスの共通プラットフォーム構築の着手

【目 標】

- ・循環型社会の形成を促進するため、リバース（リユース・リサイクル）ロジスティクスのビジネスモデルを構築すること
- ・ビジネスモデルに基づくリバースロジスティクスの活動を効率的かつ効果的に推進するため、共通プラットフォームを構築すること
- ・共通プラットフォームを機能させるために、企業間取引で使用する物品および情報を標準化すること

1) 関係データの提供ならびにヒアリング等の調査の協力要請

(1) 調査協力の対象

CGLメンバー（家電・OA機器、自動車、食品などに関わるメンバー中心）

(2) 調査協力の目的

ビジネスモデルの構築に必要な情報を収集すること

（複数企業・業界における物流に関する取引上の具体的かつ定量的な問題点・課題の洗い出など）

【問題点と課題の例示】

部品名称等の統一化

・A社： 、B社：x

帳票、伝票フォーマットの統一化

・帳票のサイズ A社：たてX cm・よこY cm、B社：たてx cm・よこy cm

情報システムの標準化の推進

・製品と部品コード体系の統一化（記載する項目や桁数などの共通化） など

2) 関連法制度に関する関係行政機関との意見交換の実施

例) 廃掃法、各種リサイクル法など

企画運営委員会からのロジスティクス環境会議（CGL）メンバーへの提案（案）

3. 関連法制度に関する関係行政機関とCGLメンバーとの課題の共有

1) 関連法制度に関する関係行政機関とCGLメンバーとの意見交換会実施の要望

(1) 要望先

CGLオブザーバーである関係各省を中心とした関係行政機関

(2) 要望の趣旨

ロジスティクスの観点から循環型社会の形成に寄与するため、関係行政機関との連携を図ること

(3) 要望の概要

関連法制度（省エネ法、廃掃法、各種リサイクル法等）に関する関係行政機関と産業界（CGLメンバー）の課題の共有

例) 改正省エネ法に関する意見交換

【改正省エネ法のポイント（荷主企業の例）】

趣旨：荷主となる事業者に対し省エネルギーの取組についての義務付けを行う。

対象：自らの事業活動に伴って貨物輸送を委託している者のうち、……………

内容：計画の策定と定期の報告

報告 トンキロ法で算定した二酸化炭素排出量を輸送コスト等で割った値など（年1回主務大臣に報告）

(4) 意見交換実現に向けた基本的な進め方（素案）

CGLメンバーからの要請

企画運営委員会において意見交換すべき内容の確認と調整

事務局がオブザーバーを中心とした関係行政機関へ依頼

関係各省の承諾を得られた後、企画運営委員会あるいは該当委員会にて意見交換を行う。

CGLメンバーへの報告